

ホワイトスペース推進会議（第3回会合：公開ヒアリング）議事要旨

1 日時

平成23年2月4日（金） 15時00分～17時30分

2 場所

三田共用会議所 1階 講堂

3 出席者（敬称略）

（メンバー：50音順、敬称略）

木村太郎、後藤幹雄、土居範久、東倉洋一、所眞理雄、中村伊知哉、三友仁志、村上輝康、森川博之

（ヒアリング対象者）

【第1部】

1.（株）JM デジタルメディア、2.（株）東通、3.（株）ボードウォーク、4.（株）日本総合研究所、茅野まちづくり研究所有限責任事業組合、（株）ツーリズム・マーケティング研究所、（株）ミヤプロ（全国青年印刷人協議会）、5.京都府京丹後市、6.富山県南砺市、7.飛騨高山ケーブルネットワーク（株）

【第2部】

8.技術研究組合農畜産工業雇用推進機構、9.ソニー（株）、ソニー企業（株）、（株）アニマックスブロードキャスト・ジャパン、10.東京ワンセグ放送（株）、11.森ビル（株）、12.（株）エフエム京都、京セラコミュニケーションシステム（株）、13.東日本高速道路（株）、14.（株）イグナイト・ジャパン、モバイルコア（株）、多摩大学情報社会学研究所、特定非営利活動法人ミャンマー総合研究所、15.（株）中海テレビ放送、16.（国）筑波技術大学

【第3部】

17.（株）テレビ神奈川、18.（国）信州大学、（株）テレビ松本ケーブルビジョン、19.専修大学、20.立命館大学、21.（株）ケーブルメディア四国、22.（株）シーポイント、（国）静岡大学工学部、NPO 法人浜松ソフト産業協会、23.（株）毎日放送、24.郡山高度情報化システム研究会、25.宮日総合広告（株）（宮崎日日新聞グループ）

（総務省）

森田総務大臣政務官、小笠原総務審議官、桜井総合通信基盤局長、久保田総括審議官、吉田電波部長、稲田審議官、前川総合通信基盤局総務課長、渡辺電波政策課長

（事務局）

電波政策課

4 配布資料

資料 3-1～資料 3-25 提案者の発表資料
参考資料 1 「ホワイトスペース特区」について

5 議事概要

(1) 開会

- 森田総務大臣政務官から挨拶、公開ヒアリングの趣旨の説明が行われた。
- 土居会長から公開ヒアリングの流れ及び大阪サッカークラブ（株）の欠席について説明があった。

(2) 公開ヒアリング

① 各提案者からのプレゼンテーション

- ヒアリング対象者（25 者）から「ホワイトスペース特区」での実施概要、実施計画等についてプレゼンテーションが行われた。

② 質疑応答・意見交換等

- 上記プレゼンテーションに対して行われた主な質疑は以下のとおり。

【第 1 部】

（構成員）

- ・ （株）JM デジタルメディアにお聞きしたい。提案におけるビジネスモデル及び全国展開のイメージを教えて欲しい。

（（株）JM デジタルメディア）

- ・ 皇居周辺には、一日 4000 人以上のランナーが集まっており、かつ、ランナー用の施設などが多数あることから、ランナー向けのサービスを提供することを収入として見込んでいる。
- ・ 全国展開については、具体的にはこれから計画していく予定である。当社は FM ラジオ局によるネットワークを持っていることから、地元との太いパイプを持っており、地域密着型の情報を配信することが可能である。

（構成員）

- ・ （株）JM デジタルメディアにお聞きしたい。ワンセグ端末の他に、慶應大学で開発中のスマートキャストも利用するとあるが、どのように使うのか。

（（株）JM デジタルメディア）

- ・ スマートキャストを用いて、屋外では携帯端末へランナー向け音声を配信したり、店頭においてはデジタルフォトフレームのような端末など様々なデバイスへ映像などを配信する予定である。

（構成員）

- ・ （株）JM デジタルメディアにお聞きしたい。「環境問題の解消に対する啓蒙活動」とは何か。

（（株）JM デジタルメディア）

- ・ 皇居周辺では、ランナーが増加する中で、ランナーのマナーが問題と

なっており、ランナーのマナー向上に繋げるための活動である。

(構成員)

- ・ 富山県南砺市にお聞きしたい。収益性は見込めるのか。また、ホワイトスペースの利活用が地域の活性化にどのように貢献していくのか。

(富山県南砺市)

- ・ 地元のアニメ会社と提携した観光を想定しており、収益については模索していきたい。
- ・ 観光情報を発信することにより、地域そのものを活性化させたい。

(構成員)

- ・ (株) ボードウォークにお聞きしたい。放映は、どこで行うのか。また、多目的なビジネス展開を考えているようだが、最も重きを置いているのは、どれか。

((株) ボードウォーク)

- ・ 実験開始後、1、2年目はイベントで放映することを予定している。
- ・ ビジネスモデルとして最も重きを置いているのは、広告収入ではなく、物販である。併せて、デジタルサイネージの広告の価値についても検証したいと考えている。

(構成員)

- ・ (株) ボードウォークにお聞きしたい。地域活性化の観点から、全国展開の予定はあるのか。

((株) ボードウォーク)

- ・ 例えば、ロック好きの人が集まったエリアには新しい文化が生まれ、地域活性化につながると思う。今回の提案が成功すれば、将来的には全国展開することも予定している。

(構成員)

- ・ (株) 東通にお聞きしたい。変調方式の研究開発にかかるコストはどうするのか。

((株) 東通)

- ・ 当社は、ホワイトスペース特区先行モデルの TBS に技術面で協力しており、今回はそれを活かして行う予定。

(構成員)

- ・ 京都府京丹後市にお聞きしたい。収益性と継続性は見込めるのか。

(京都府京丹後市)

- ・ 現在、京丹後市では、ケーブルテレビ事業を運営しており、市で番組

作成を行っている。さらに、京丹後市の観光ポータルサイトや地域産品販売サイトの運営を行う事業者とも連携し、事業展開していく予定である。

【第2部】

（構成員）

- ・ 技術研究組合農畜産工業雇用推進機構にお聞きしたい。秋葉原及び日本橋に情報を発信することによって、地域が活性化するとは、どういうことか。

（技術研究組合農畜産工業雇用推進機構）

- ・ 我々は、秋葉原及び日本橋の小売店の商品入荷情報や売上げ状況を把握しており、各小売店の新商品や人気商品の最新情報などを提供することで、売上げ向上に繋げ、地域の活性化を目指す。
- ・ また、地域の農産物とサブカルチャーの商品を組み合わせることも考えている。

（構成員）

- ・ 森ビル（株）にお聞きしたい。豊富なコンテンツを配信するようだが、コンテンツは森ビルが制作するのか。

（森ビル（株））

- ・ 具体的には特区として選定されてから詳細に検討する必要があるが、従来から我々は、建物内及び周辺の映像装置に多種多様なコンテンツを配信している実績がある。特区においても、関連各社やコンテンツクリエイター等に協力してもらいながら、コンテンツを配信したいと考えている。

（構成員）

- ・ 技術研究組合農畜産工業雇用推進機構にお聞きしたい。発表資料には、進行中の研究事業としてトレーサビリティに関する実験について記載されているが、特区での実証内容には含まれないのか。

（技術研究組合農畜産工業雇用推進機構）

- ・ QRコードを用いたトレーサビリティシステムの開発は来年以降で考えている。時期的な問題から、特区の提案内容からは外すこととしたが、ホワイトスペースを利用したトレーサビリティシステムは、技術的には可能であると考えており、将来的な課題と考えている。

（構成員）

- ・ （株）イグナイト・ジャパンにお聞きしたい。提案は研究開発要素が高いと感じたが、どのようなビジネスモデルを考えているのか教えて欲しい。
- ・ 最大の目的は、日本において確立したホワイトスペースの通信方式を

発展途上国に普及させるということか。

((株) イグナイト・ジャパンなど)

- ・ ビジネスモデルについては、現在検討中である。
- ・ 発展途上国へのインターネットの普及もあるが、自治体にも普及させたいと考えている。
- ・ 将来的には、コグニティブ無線などを使うことによって、離島も含めたルーラルエリアにおいて、簡易なネットワークを形成したい。

(構成員)

- ・ (株) イグナイト・ジャパンにお聞きしたい。ルーラルエリアでブロードバンド環境を整備するのは確かに重要であるが、ISM バンドでも同様なことが可能だと思う。あえてホワイトスペースを利用するのはなぜか。

((株) イグナイト・ジャパンなど)

- ・ 経済的な問題が大きい。外国のデータや電波の飛び方を鑑みると、最もローコストでインターネットサービスを提供できるのは、ホワイトスペースの活用ではないかと考えている。

(構成員)

- ・ 東日本高速道路(株)にお聞きしたい。「放送を見たドライブ旅行者に、最終目的地以外の場所へ立ち寄る等の行動を喚起」とは、どういうことか。

(東日本高速道路(株))

- ・ ドライブ旅行などをする場合、最終目的地は決めているが、途中で立寄る場所を決めていない旅行者が存在する。このような旅行者は、主に SA・PA を観光情報の取得拠点として考えているようである。このため、SA・PA からドライブ旅行者が道中、立ち寄りたくなるような観光情報を提供していくことにより、ドライブ旅行者の立寄り行動を促すことができるのではないかと考えている。
- ・ また、提供する観光情報については、当該地域の自治体等と協力して、番組制作を行っていくことも検討中である。

(構成員)

- ・ 走行中の車に情報提供することは、交通安全の観点から、良くないのではないか。

(東日本高速道路(株))

- ・ 走行中の運転手への動画配信は難しいが、音声を中心とした情報を提供したいと考えている。
- ・ 交通安全を犯さない範囲で、カーナビなど車載端末に情報を発信することも検討中である。

(構成員)

- ・ 技術研究組合農畜産工業雇用推進機構にお聞きしたい。提案内容を持続可能なものにしていくために、どのような方法や連携を想定しているのか。

(技術研究組合農畜産工業雇用推進機構)

- ・ 秋葉原の小売店及び提携会社と協力し、農作物などの商品と秋葉系コンテンツを組合せ、秋葉原ならではの商品を開発することを考えている。それらの情報を地方へ提供することで、地方からの集客も見込んでいる。

(構成員)

- ・ 具体的な連携先はあるのか。

(技術研究組合農畜産工業雇用推進機構)

- ・ 秩父市のアクアファームなどの農家をはじめとして、5つの地域と既に連携できる体制にある。

(構成員)

- ・ 森ビル(株)にお聞きしたい。時間割でサービス提供するということが興味深いですが、これで自律的にビジネスが回っていくことを想定しているのか。

(森ビル(株))

- ・ スポンサーからの収益が重要であると考えている。我々は、年間1500回ほどのイベントを開催し、かつ、来場客数が5000万人にも上ることから、集客力については問題ないと考えている。その中で、適宜、イベントやコンテンツに合わせた手法の組み合わせで、時間割でサービス内容を変化させながら提供できれば、より利用者の利便性にあった提供が出来るものと考えている。ただし、来場客が携帯端末などでいかに容易に視聴しやすくすることが最も重要であると考えている。また、運営サイドのコストをできる限り抑えることが可能な運営体制を構築したいと考えている。
- ・ 例えば、森ビル提案の六本木ヒルズ他で、今回サービスを行い成功事例として確立できれば地方地域における先行成功事例として提示することができ、日本全国で同サービスがそれぞれの地域性を生かしたコンテンツを生かしたサービスとして利活用できるようになれば、日本全国で様々な地域コンテンツサービスの認知度も高まり利用者が増え、結果、収益も上がりビジネスモデルが構築できると考えている。

(構成員)

- ・ (国)筑波技術大学にお聞きしたい。聴覚障害者からの要望に対応して情報を配信するオンデマンドでやるのか。それとも、大学内で発信

し続ける仕組みなのか。

- ・ 手話をする方々はボランティアか。

((国) 筑波技術大学)

- ・ 当大学では、聴覚障害学生が希望すれば、原則として、聴覚障害学生に対して情報保障を行うこととしているため、常にその学生が手元で情報を得ることができるようにしている。
- ・ 手話をする方々は有償である。

【第3部】

(構成員)

- ・ 立命館大学にお聞きしたい。学生制作のコンテンツは視聴ニーズがあるのか。

(立命館大学)

- ・ 昨年行ったアンケート結果から、学生独自のコンテンツを配信すれば、多くの人に見てもらえると考えている。

(構成員)

- ・ (株) 毎日放送にお聞きしたい。クロスメディアについて、サービスのユニークさはあるのか。

((株) 毎日放送)

- ・ 送信機から専用受信端末までは、ホワイトスペースによるエリアフルセグ放送を用いるが、専用受信端末から視聴者の携帯端末などへは、Wi-Fiによる通信を予定している。

(構成員)

- ・ (株) テレビ神奈川にお聞きしたい。様々なコンテンツを提供すると提案されているが、最終的には、北仲スクールを実現したいということか。

((株) テレビ神奈川)

- ・ 北仲スクールを成り立たせるために、地元のNPO団体などが作るコンテンツを活用した様々なサービスを展開することを考えている。さらに、様々な情報発信メディアと連携し、広告モデルとしても成り立たせたいと考えている。

(構成員)

- ・ 立命館大学にお聞きしたい。特定(認証)受信端末とは何か。

(立命館大学)

- ・ 各学部ごとのコンテンツをその学部に所属する学生のみ受信できる端末のことである。

- ・ コンテンツの受信を無料とするため、収益を上げようとする工夫が必要である。そのため、このような認証システムを用いて、新しいビジネスモデルとして、コンテンツ利用料の導入を考えている。

(構成員)

- ・ (株)シーポイントにお聞きしたい。ブログコミュニティ「はまぞう」におけるコンテンツ提供者は、ボランティアのように見受けられるが、継続的に提供してもらえるようなインセンティブはあるのか。

((株)シーポイントなど)

- ・ コンテンツについては、はまぞうのコンテンツだけではなく、既存のCATVコンテンツも用いる。CATVのブログコミュニティ「はまぞう」は、テレビで市民の動向を見たいというニーズから始まった。

(3) 今後の予定

- 今後の予定については、事務局より追って連絡することとなった。

以 上